



地理の写真館

マレーシアの学校における多民族社会の様相

本校は、平成8年度からシンガポール・マレーシア研修旅行を実施している。生徒たちは現地では多くの「教材」を発見し、帰国後はそれらを使った学習を展開している。本稿では、マレーシア・ジョホールバルにある女子校での交流を通じて、本校生徒が体験した多民族社会の様相について紹介したい。

外務省のHPによると、マレーシアの民族構成はマレー系（66%）、中国系（約26%）、インド系（約8%）、その他（1%）とある。学校でも概ねその実態を示しており、民族に合わせた制服も用意されている。すべての場合において、胸元がはだけることなく、スカートは足首まで隠れるものとなっている。またムスリムの生徒に対しては、頭部を隠すスカーフも制服として用意されている。スカートを短くしたり、奇抜な頭髪にすることは絶対に許されなところは日本の場合と異なる（写真①）。授業交流の際、服装に関連する興味深い発見をした。どこを隠すかという点から、体育の授業は民族別に実施されているのだ。当然ムスリムの生徒たちは高温多湿の屋外にもかかわらず、頭部を含む全身を隠す服装で体育の授業を受ける（写真②）。同様の格好で授業にチャレンジした本校生徒は、5分もたたないうちにギブアップしたのは言うまでもない。教科書には、マレーシアはマレー系を優遇するブミ

プトラ政策を行っている」とある。これだけを捉えると、学校内でもマレー系の生徒が突出し、他の民族の生徒は影を潜めているのではないかというのが研修旅行出発前の生徒の考えであった。ところが実態は異なっていた。それぞれの民族の生徒が誇りをもって自分たちの文化を紹介してくれた。とくにインドの伝統的な結婚式の再現は興味深く、マレー系の生徒もこれに参加していた（写真③）。また、東南アジアの伝統楽器ガムランを中国系の生徒が本校生徒に手ほどきをしてくれるという場面も見られた（写真④）。本校生徒も日本文化を紹介するということで、マレー系の先生を主賓としたお点前を披露し交流を深めた（写真⑤）。

交流後のインタビュー調査によると、彼女たちは自民族の文化を大切にするとともに、他民族の文化も受け入れ、相互理解を図ることが多民族社会においては必要であると語ってくれた。本校生徒は交流を通じて、ブミプトラ政策に対する先入観を打ち砕いたとともに、多民族社会に生きる人々の寛容な心を学んだ。もちろん、ブミプトラ政策はマレー系と他の民族の経済的格差を是正するのが主たる目的であり、エスノセントリズム的発想ではないと補足することは必要である。

（京都府立園部高等学校 松原 久）

写・真・募・集

このコーナーの「カラー写真」を募集しています。海外巡検などで撮影された地理的写真を、資料編集部「地理・地図資料」係までお送りください。